

3 軒先構造

1) 軒先(野地板、屋根材、水切り)の基本寸法 (図1 参照)

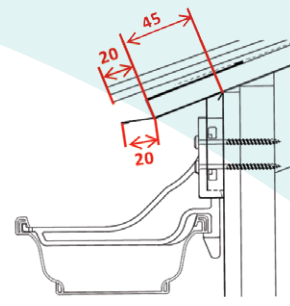
野地板の出寸法 = 45mm

野地板から屋根材の出寸法 = 20mm

水切りの出寸法 = 20mm (Z型水切り推奨)

※上記以外の軒先構造の場合は、別途位置確認が必要。

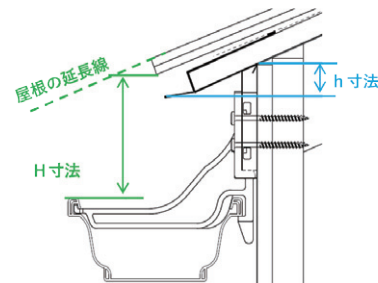
(軒先納まり、ビスの取り付け、積雪対応などを確認し、使用可否判断を行う)



(図1)

2) 破風部材最外面と野地板の接点から屋根材の最下面までの距離 (図2 h寸法)

屋根部材(主に水切り、野地板、屋根)の最下面が低すぎるとビスを打てない場合がある。為、屋根材の最下面までの距離を定める。*水切りの寸法、形状および屋根の勾配、出寸法が影響する為、要注意!! h寸法は20mm以下 (全地域共通)



(図2)

3) 軒樋施工高さ (図2 H寸法)

省施工金具ノキピタは、金具取付位置が固定されている為一般的な納まりとは異なります。*1

*1 ① の納まり図参照。(中雪地域ではH寸法: 65mm以上)

4 積雪量・風による地域区分、場所区分 ※金具取付間隔とビス仕様

積雪量による地域区分 (雪対策)

地域区分	型番	117	CR105	RG155
一般地域	積雪量 ~ 30cm 未満	・金具の取付間隔 910mm 以下 ・ビス留め本数 2本以上		
中雪地域	積雪量 ~ 100cm 未満	・金具の取付間隔 455mm 以下 ・ビス留め本数 3本		使用不可
多雪地域	積雪量 100cm 以上	使用不可		

※ 積雪地域では必ず屋根に「雪止め」を取り付けてください。

風による地域・場所区分 (風対策)

地域区分	型番	117	CR105	RG155
一般地域 (Vo=~38m/s)		・金具の取付間隔 910mm 以下 ・ビス留め本数 2本以上		
	強風場所	・金具の取付間隔 455mm 以下 ・ビス留め本数 3本		
強風地域 (Vo=38~46m/s)		・金具の取付間隔 455mm 以下 ・ビス留め本数 3本		
	強風場所	使用不可		

(地域規定)

※強風地域とは、建設省(現国土交通省)告示 第1454号で定められた基準風速が38~46m/sの地域を示す。(=沖縄県全域、鹿児島県の一部、離島)

※強風場所とは、以下の場所を示す。

海岸、湖岸から500m以内の場所 / 高低差20m以上の高台(崖上など)の場所 / 山間部の谷あいの風道になる場所 / 風よけのない田圃地帯 / その他強風が予想される場所。

5 施工上の注意

ノキピタシリーズは金属支持部を取り付けた後、フタと吊り部(共にポリカ製)を外してから下段の凸部に再セットすることで、金具取付位置を5mm下げられる機能を有する。

1) 金属支持部への吊り部取付位置

■ 全ての金具を5mm下げの場合、軒樋の水勾配は水平勾配を基本とする。

以下の場合などに5mm下げて施工する。

- ・軒先構造や屋根勾配により、ビス打ちが困難な場合。
- ・中雪地域で軒樋施工位置を下げたい場合

■ じょうごの左右のみに勾配をつける場合。

- ・金具取付間隔 910mm の場合は水勾配の為に5mm下げは許容する。
 - ・金具取付間隔 455mm 以下の場合は水勾配の為に5mm下げは厳禁とする。
- ⇒ 軒樋の伸縮を阻害し、軒樋が蛇行変形する可能性がある為。
- ※ 5mm下げることで下側のビスが垂木に効かない可能性がある為、5mm下げる場合はビス3点留めを必須とする。

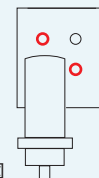
2) 金属支持部の目盛

金属支持部には垂木への取付位置の目安として、目盛を有するが目盛は破風部材の厚さを示すものではない。金属支持部は全屋根勾配に共通する部材であり、目盛は屈曲部からの距離を示す為、屋根勾配により目盛数値と破風部材の厚さに差がある。

3) ビス留め位置

ビス2点留めの場合は右図の様に対角に留める。

- ・右図対角以外の2点留めでは風、雪の荷重によりビスが外れる恐れがある。



正面から見た図

お問合せ

北恵株式会社

〒541-0054 大阪市中央区南本町3-6-14 イトウビル
Tel:06-6251-8361 Fax:06-6251-7671

<http://www.kitakei.jp>
<http://www.sprout-univ.com>

製造元

シタジレス・ノキハフダー-Z

hauseco

株式会社ハウゼコ
大阪市中央区南船場2-10-28
下村ビル2F

シタジレス・ノキハフダー-Z

日本化学産業株式会社

日本化学産業株式会社
埼玉県草加市青柳1丁目1番24号

ノキピタ

Denka

デンカ株式会社
東京都中央区日本橋室町2-1-1
日本橋三井タワー

軒天破風一体型板金

特許取得

シタジレス・ノキハフダー-Z

「シタジレス・ノキハフダー」と「ノキピタ」で、
工期短縮とコストダウンを実現!

省施工金具

ノキピタ

特許
申請中

シタジレス・ノキハフダーZと 省施工金具ノキピタは なぜ生まれたのか。

少子高齢化の今。

建築業界でも、熟練工不足・職人の高齢化・現場生産性の向上・技術の伝承など…多くの課題ができています。資材メーカーも、この先、より深刻になる人手不足の問題解決に向けた機能部材と新工法の開発は重要なキーワードでした。

そんな中、「シタジレス・ノキハフダーZ」と「省施工金具ノキピタ」は誕生しました。

キーワードは軒先の「簡易施工」「工期短縮」「コストダウン」。

これからの時代にあった新製品と新工法をご提案いたします。

Point 1 工期短縮

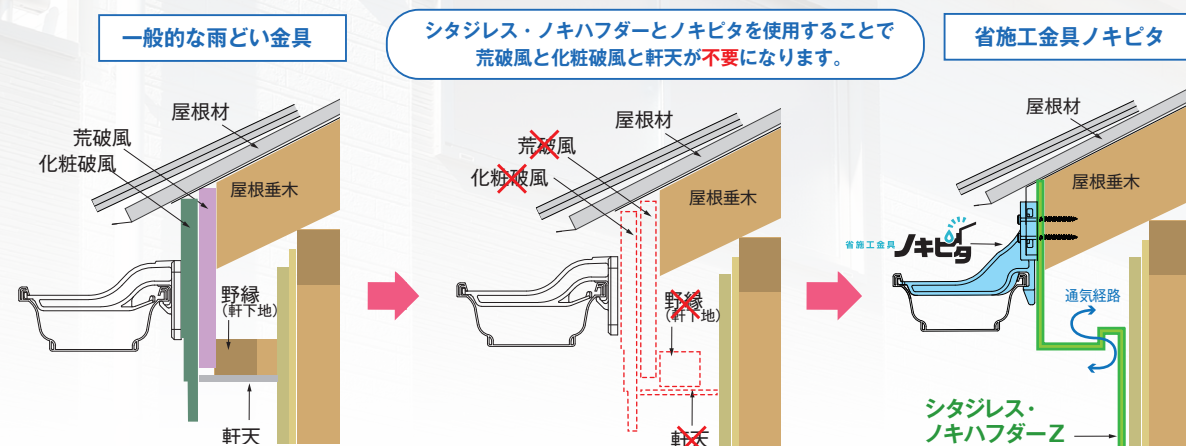
作業工程が少なくなることで、工期日程が短縮できます

Point 2 簡易施工

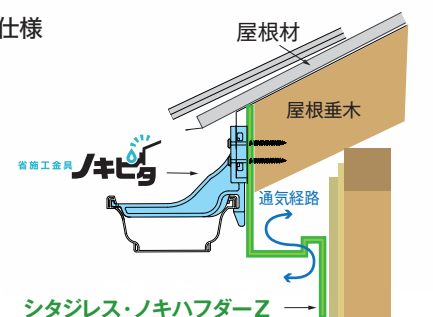
熟練技術が不要で施工が容易になります

Point 3 コストダウン

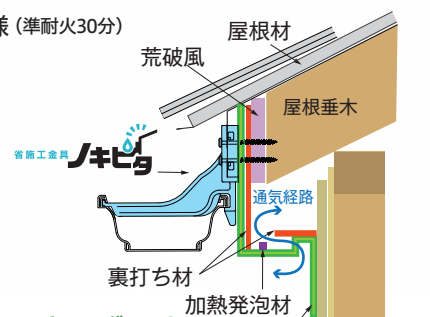
荒破風と化粧破風、軒天が不要になります



非防火仕様



防火仕様 (準耐火30分)



※準耐火 30 分仕様には荒破風材が必要となります。

シタジレス・ノキハフダーZ 軒天破風一体型板金

画期的工法で取付簡単！しかも、メンテナンスフリーかつ
エコロジーなのでコストダウンまではかれます！

ココが
ちがう！

1 シタジレス・ノキハフダーZの特長

*延床面積 約30坪の住宅で窯業系無塗装板金を使用した場合と比較して

1 工期短縮

従来の軒天・破風工事は、軒天木下地工事・軒天井取付工事・破風取付工事・シール工事・塗装工事などを行うため、工期約6日が必要でしたが、「軒天破風一体型板金シタジレス・ノキハフダーZ」を使用すると、工期1日で完成し、約5日の工期短縮となります。

従来工期

約6日

シタジレス・ノキハフダーZ

1日

約5日
短縮！

2 コストダウン

工期短縮は、そのままコストダウンを実現します。従来の工期コストは約18万円から20万円でしたが、「軒天破風一体型板金シタジレス・ノキハフダーZ」では、約10万円から12万円と約40%～44%のコストダウン可能となります。また、完全プレカット品のため梱包材以外の廃材処理費が発生しません。

従来コスト

約18～20
万円

シタジレス・ノキハフダーZ

約10～12
万円

約8万円
コストダウン！

3 エコロジー

従来は、軒天木下地工事・軒天井取付工事・破風取付工事などを行うため、廃材が出るのが普通でしたが、「軒天破風一体型板金シタジレス・ノキハフダーZ」は、一棟毎に図面より拾い出しを行い、工場で形状加工・カット加工を行った完全プレカット品ですので、現場では取り付け作業だけとなり材料の現場加工による廃材が発生しません。

従来廃棄物

下地端材
軒天端材
など

シタジレス・ノキハフダーZ

梱包材
(段ボールのみ)

廃材が
出ない！

4 メンテナンスフリー

従来品は現場塗装及びシーリング工事による仕上げのため、長年の強い日差しや風雨にさらされると、色あせやひび割れが発生する可能性があります。が、「軒天破風一体型板金シタジレス・ノキハフダーZ」は、塗膜15年保証の長期保証で安心です。

従来商品

色あせ・ひび割れの
可能性があり

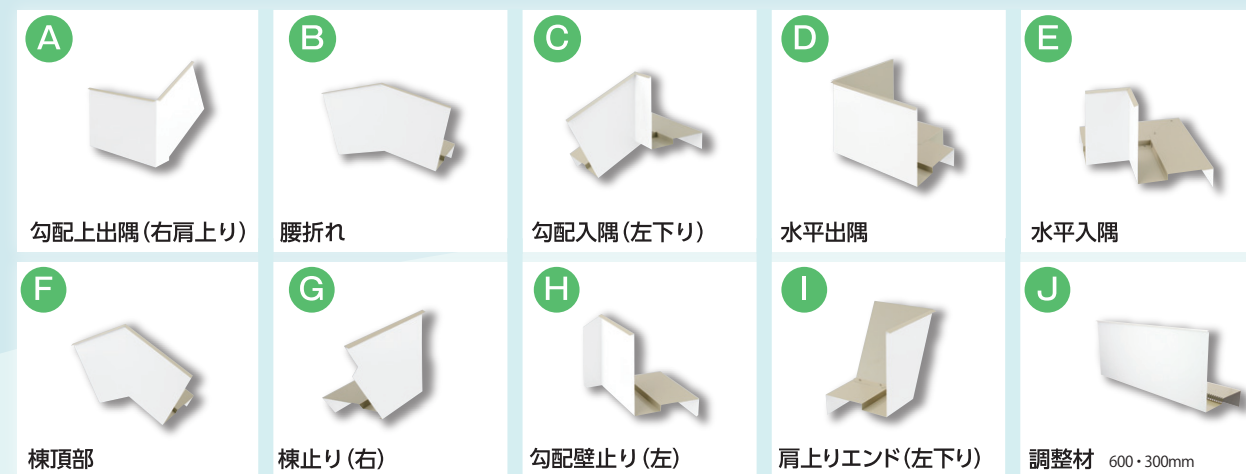
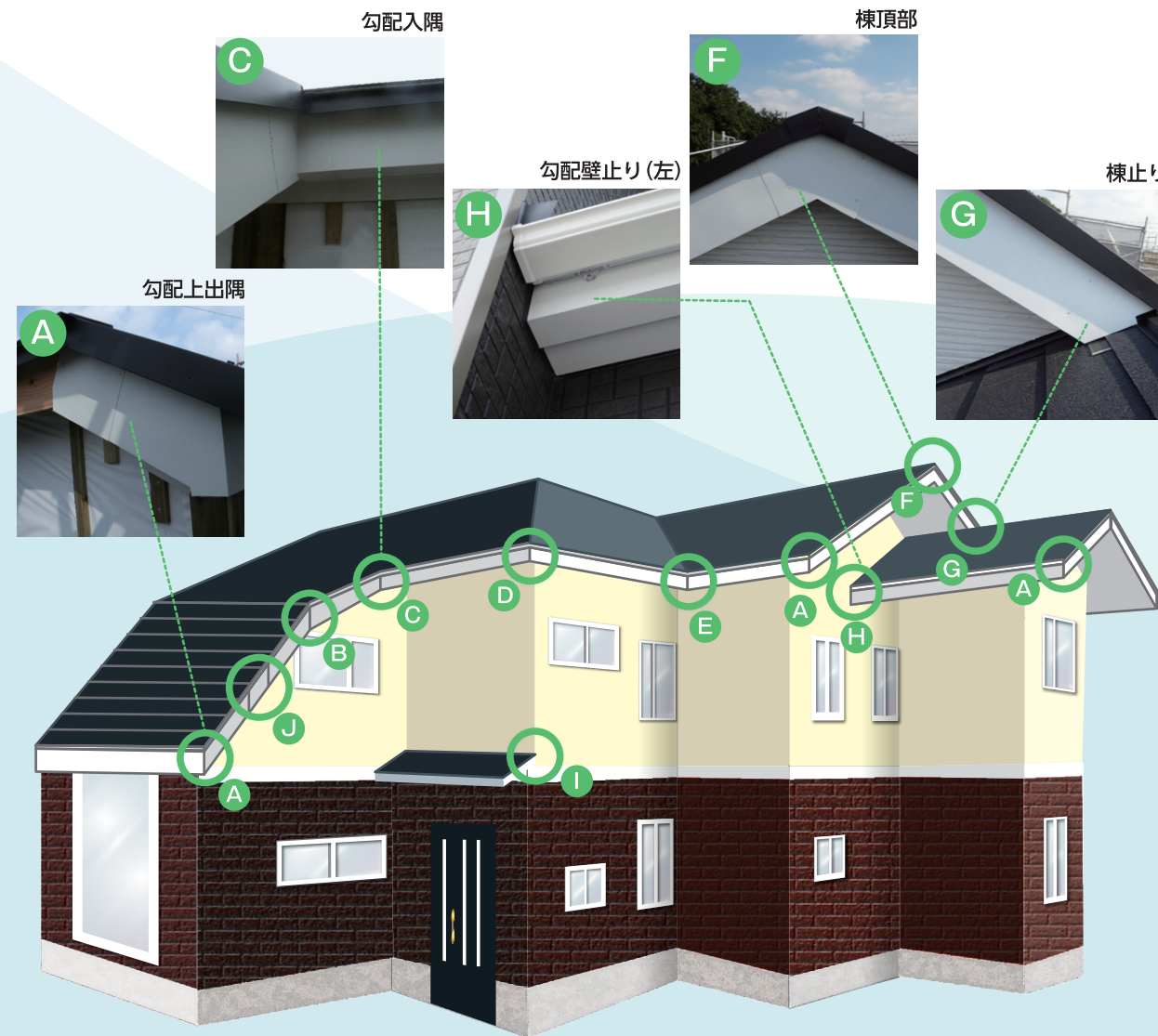
シタジレス・ノキハフダーZ

品質安定
長期保証で安心！

塗膜
15年保証※
(割れ・剥がれ)

※塗膜15年保証については「塗膜15年保証に関する説明」をご参照ください。

2 部材取付図



3 施工手順(全体フロー)

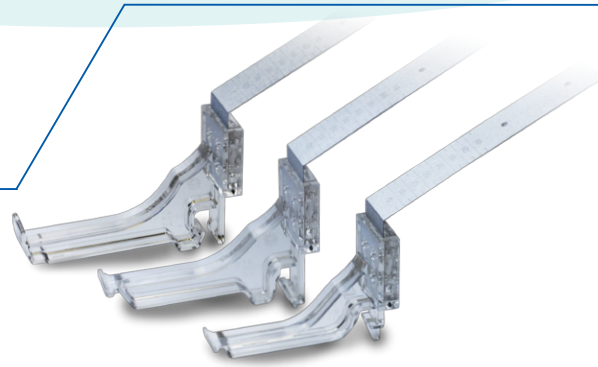


塗膜15年保証に関するご説明

- 保証期間：本製品に使用されている銅板製造後15年間とします。
- 保証内容
 - 塗膜の膨れ・剥がれ
表面塗膜を2m離れて垂直に目視し、平坦部に膨れ・剥がれの発生が認められないこと。(海岸線より2Km離れた地域に限ります)
 - 保証方法
・塗り替え塗装の支給・塗装工事費用の負担・代替ノキハフダーZの材料の支給
(なお、保証内容的に抵触するか否かの判定及び保証方法についての決定権は銅板メーカーが保有します)
- 保証のための条件
 - 環境条件
(この保証は、通常の環境下で使用された場合に適用するものとし、次に示すような特殊な雰囲気や過酷な条件下で使用する場合を除きます。)
 - 海岸線に近く、潮風やしぶきが掛かる場所及び海塩粒子の影響を受ける地域。
 - 酸、アルカリ、塩類など相当量空气中に放出する工場のある地域及び公害の対象となる地域。
 - 火山灰の飛来する地域、温泉地帯や絶えず腐食性ガスや蒸気を噴出する場所。
 - 工業用加熱炉の近傍などの銅板の温度が100℃を超えるような場所。
 - 煙塵および金属粉末などの直接付着する場所。
 - 施工時に比して環境が著しく悪化した場合。
 - その他上記に準じるような過酷な条件の場所。
 - 使用上の制限(次の場合は、保証の対象外とします。)
 - 設計(算工法毎に許可される屋根勾配を無視など)により生じた欠陥。
 - 成型加工、運搬、施工時に塗膜部に加えられた負担により生じた欠陥及び施工後外力によって生じた損傷に起因する欠陥。
 - 成型加工、施工後に塗膜部に加えられた負担により生じた欠陥。
 - 水が滞留する場所に発生する欠陥、或いは屋根勾配が1/50より小さい場所に発生する損傷。
 - 端面、切口、ボルト穴、釘穴、溶接部から発生する欠陥。
 - もらい錆、異種金属との組合せ部及び瓦、断熱材、木材及びその他建物に付随する物質(例えば、瓦、断熱材、防腐剤、防蟻剤などを含む木材等)より溶出する成分に起因する欠陥。
 - 補修塗装部の塗膜欠陥
 - 他社材と混合施工された場合。
 - 落葉及び動物や鳥等の排泄物付着、切粉、加工屑、粉塵などに起因する損傷。
 - 断熱材貼付加工が熱融着により行われた場合。なお、接着剤を使用する場合は、塗膜に影響を及ぼさないことを確認した場合にのみ可とします。
 - 建築施工時から建築物が転売された場合。
 - 酸、アルカリなどの薬品による洗浄に起因する欠陥及び融雪剤などの塩類の飛来により生じた欠陥。
 - その他、当社の責によらない場合。

省施工金具ノキピタ

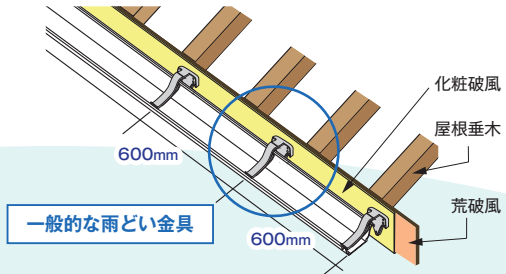
軒下地・荒破風が不要な『完全下地レス』
画期的な金具の取付方法で工期短縮とコストダウンを実現します！



1 ノキピタはここが違います！

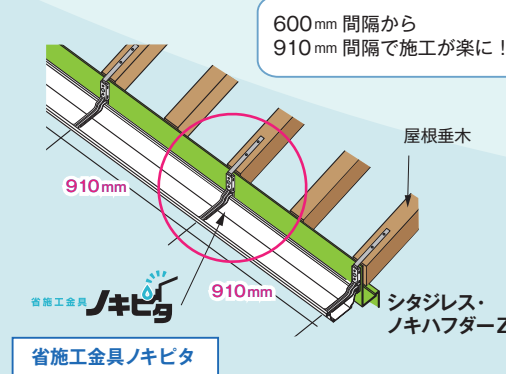
一般的な雨どい金具の取付方法

通常金具は軒下地（荒破風）＋化粧破風への取り付けが一般的です。また金具の取付位置決め（水系使用）が必要です。（金具の取り付けに最も時間がかかります！）



画期的！「省施工金具ノキピタ」で簡易施工を実現！

軒どい省施工金具は、垂木への仮固定時点で金具の取付位置が決まり、本固定時の位置決めが不要です。またシタジレスノキハフダーZを併用し、垂木に固定することで軒下地（荒破風）不要の施工を実現しました。



2 ノキピタ施工手順

作業スピードが格段にアップ！



上棟時、垂木上部に金具の金属部分を仮固定。



屋根下地施工後。



垂木と仮固定した金具の間にシタジレス・ノキハフダーZを挿入。



シタジレス・ノキハフダーZ挿入後、金具を本固定。（取付位置も固定されており、位置決め不要）



軒どい取付後。

3 ノキピタシリーズ基本仕様

K型 117・K型 CR105・K型 RG155

1 ノキピタシリーズ一覧

製品	品名	品番	梱包数	納まり図
	K型 117	A5130F510B031	50	
	K型 CR105	A5130R520B031	50	
	K型 RG155	A5130G530B031	50	

2 建物構造

1) 共通項目

	基本仕様	備考
屋根材質	スレート瓦のみ	・シングル材、平瓦、和瓦での使用可否は納まり図確認後の判断とする。
破風勾配	0寸のみ（＝タテミツのみ）	・勾配付（＝カネミツ）への使用は不可。
建物高さ	9.0m未満（3階建以下）	・風圧荷重の関係上、9.0m以上（4階建以上）は使用不可。
積雪地域 ＊1	117、CR105は積雪量 100cm未満 RG155は積雪量 30cm未満	・積雪量 100cm（RGの場合 30cm）以上の地域では使用不可。 ・軒樋配置高さが多雪地対応の位置まで下げられない為。
屋根勾配	4～6寸（5寸基準）	・その他勾配での使用可否は納まり図確認後の判断とする。
水切り寸法、角度	金具施工に邪魔にならないこと	・垂木正面にビス取り付け時、邪魔にならないこと。（Z型水切り推奨）

＊1 積雪地域の基本仕様詳細は 4 積雪量・風による地域区分、場所区分を参照。

2) 荒破風が無い場合 ＝ 破風部材が金属破風の場合

	基本仕様	備考
垂木寸法	高さ 60mm以上 × 幅 45mm以上	・左記未満の場合は垂木にビスを打てない為、不可とする。
垂木材質	松材を推奨	・杉材は好ましくない。
破風部材の厚さ	金属破風の厚さが 0.5mm以下	・荒破風が無く、金属破風以外の破風部材が入る場合は別途相談。

3) 厚さ 20mm 以上の荒破風がある場合

	基本仕様	備考
垂木寸法	制限なし	・ビスが荒破風に効く為。
破風部材の厚さ	合計 70mm 以下 （化粧破風、軽カル板、金属破風、 荒破風などの合計）	・支持部の目盛が 70mm までしかない為。 （70mm 以上の場合、支持部を垂木に打てない可能性あり）